

# 大樹の礎

Taiju no Ishizue

発行者：学校法人城西医療学園  
日本医療科学大学  
〒350-0435  
埼玉県入間郡毛呂山町下川原1276  
Tel 049-294-9000  
URL : http://www.nims.ac.jp

## 日本医療科学大学 学長 佐藤 泰正



# 高い教養と 専門的知識を養おう

皆さん、お元気で新しい年を迎えられたことと思います。

昨年はサブプライム問題に端を発した「百年に一度」とも言われる経済状況下の一年でしたが、今年は明るい年になることを期待したいと思います。

さて、わが日本医療科学大学も開学二年目を終わろうとしています。すでに、AO入試、推薦入試も終わり、二月、三月には一般入試が行われ、四月には第三期生となる新入生を迎えることとなります。

教育基本法には、「大学とは学術の中心として、高い教養と専門的知識を

養うとともに深く真理を探索して新たな知見を創造し、これらの成果を広く提供することにより社会の発展に寄与するもの」と、述べられています。

開学三年目を迎えるにあたり、学生諸君は専門的知識を身につける勉強が多くなると思います。さらに、臨床実習が始まります。医療技術の専門家になるための実習であり、臨床技術の実際を身につけることになるのです。将来を目指し、頑張ってください。御父母・保護者の皆様にもいろいろと御助言、御指導をよろしくお願い致します。

また、本学としても教育と並んで大



切な学術研究面での活躍が期待される場所です。そして、研究の場としての存在を社会に印象付けることが大事な年だと思います。おわりに、御父母・保護者の皆様の御健康・御活躍を祈念し、新年を迎えるの御挨拶いたします。

## 「伝えたいこと」

連続エッセー ③

猪股 高志

先日、ゼミのコンパで、A君がB君に「学生を続けるかどうか悩んでいる」といったようなことを打ち明けた時、B君は「俺たちは、まだ五合目なんだ。今はよく見えないけど、七・八合目まで登れば違った景色が見えてくるんじゃないか。一緒に登ろうよ」と言った。A君は感激してその話を教えてくれた。私は「今はまだ二合目だよ」と言ってみたが、とても感動した。日々学生に教えられながらの教員生活である。

さあ、学生諸君、迷わず一緒に十合目を目指そう。君たちが迷いそうなら私たちが大声で「こっちだ」と叫ぶ。私が息切れしたら、若い力で少しだけ後ろから押して欲しい。頂上を極めるにはチームワークも必要。

頂上からは、険しくもすばらしい世界が見えるはずだ。そして、その向こうにさらに高い山が見える頃には、君たちは本物の冒険者になっているだろう。

(いのまたたかし・本学教授)



# 大に開催

開催されました。  
後援会の参加もあって、学生、保護者、

## 大樹祭を終えて

大樹祭実行委員長  
診療放射線学科 二年

徳山 頌



実行委員長として無事に大樹祭を終えることができてほっとしているところですよ。

企画の段階では、芸能人を呼ぼうという話もありましたが、結果としてはそうした外部の力に頼らずに「自分たちで創る」ことに徹したことで達成感

が得られたと思います。

特に一年生が予想以上に盛り上がりてくれたのが、成功につながったと思います。

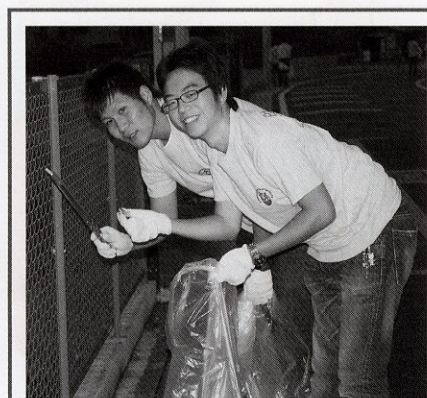
来年に向けての反省点も多くあるのですが、何といたっても準備を早くから始めること、実行委員会のメンバーができるだけ多く集めること、タイムスケジュールを練って、講演会やステージ企画への参加者を増やすこと、ゴミの片付け等をエコ活動の一環として行う事などまだまだ工夫次第で中身のあつ大樹祭になっていくのではないかと考えています。



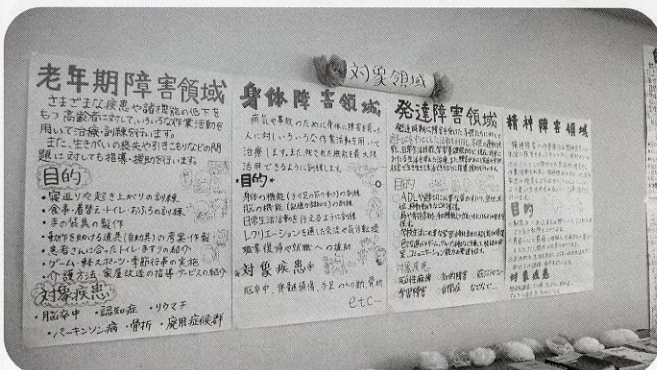
正面玄関

## 介助犬のミドル君が来校

大樹祭の企画の一つとして、現在活躍中の介助犬が来校し、講演会が行われました。  
理学療法士の野口裕美さんから、障害のある人々を助け補助する犬には、盲導犬、聴導犬、介助犬の三種類があることと、それぞれの役割が説明された後、西沢陽一郎さんが愛犬ミドル君とともに登場し、落としたものを拾ったり、携帯電話をくわえて届けるなどの作業を実際にやっていたことができました。その的確ですばやい動きに参加者から感嘆の声があがっていました。



大学周辺の環境美化のため、学生有志三十数名による「エコ活動」が、大学名の入った揃いのTシャツ姿で行われました。今後も引き続き社会貢献活動の一環として行われる予定です。



作業療法の展示



# 第3回大樹祭盛大

十一月二日、本学最大のイベントである「第三回大樹祭」が、天気にも恵まれ、盛大に開催されました。昨年と比べて多くの企画があり、また新たな用地に立派なステージも設営され、父母や地域一体となった催しとなりました。その一端をご紹介します。

## 銅メダルを披露

大樹祭で恒例となった、スポーツコメンテーターで本学客員教授の青島健太先生による講演会に、今年の北京オリンピックにおいてシンクロロナイゼドスイミング、デュエットの部で見事に銅メダルを獲得した、原田早穂選手と鈴木絵美子選手のペアが招かれ、三人によるトークショーが行われました。

オリンピックに着用した「JAPANN」のユニホームで登場した両選手は、ショーの途中で本物の「銅メダル」を披露してくれました。青島先生の軽妙な司会の下、これまでの大変な練習やメダル獲得の感動を話していただき、聞き入る学生諸君や参加者に勇気を与えていました。



声援を送る学生たち



男子のダンス演舞



# 「伝統」の重み



理事長  
校長  
学校法人城西医療学園  
城西医療技術専門学校  
新藤 宣夫

すでにご承知のように、昭和五十九年に設立された城西医療技術専門学校は、本年度の卒業生をもってその歴史的使命を終え、その任を日本医療科学大学に引き継ぐこととなりました。

この間、池袋の城西放射線技術専門学校も含めると、六千人を超える学生が学び、社会に巣立っていききました。そして、各地の医療機関で活躍しております。

財産であり、諸先輩が作り上げてきた「校風」「伝統」を守り育てていくことは、いわば崇高な使命でもあります。「新しいけれど伝統のある大学」の学生として、自覚のある日々を過ごすことを切に望むものです。

第三期生を迎える、平成二十一年度日本医療科学大学入学式は、四月二日(木)に、川越プリンスホテルにおいて行われます。

その後、父母後援会第三回総会、教員との懇親会を予定しております。

## 父母後援会より

### 御挨拶

日本医療科学大学  
父母後援会会長

池上 喜雄

早いもので、4月の父母後援会総会から一年が経とうとしています。これまで、

総会で承認頂いた事業計画に沿って「学生を第一に考える」を念頭に、学生保険加入や抗体検査の実施、学生交流や大樹祭支援などの活動を展開してきました。いまだ完成途上にある大学や父母後



大樹祭の一コマ

援会にとつて、今の歩みは試行錯誤の連続ですが、会員の皆様の意向に基づき着実に行動して参ります。特に、愛しい我が子を遠く離れて修学させている会員におかれては、子供達の大学での様子や今後の学習、諸活動の予定な

どを知りたいとの声が多く寄せられました。

そこで今後は「父母後援会通信」の充実に力を入れながら、大学と父母、父母同士の交流が図れるよう活動して参りますので、会員各位のご協力を心よりお願い致します。



本学正面玄関の真上に写真のような「日本医療科学大学」のイルミネーションが完成しました。

### 学生相談室について

本学の学生相談室長は、金子学部長が担当しております。どんな些細なことでも、遠慮なく相談してください。

(☎049-230-5006)

### 編集集後記

昨年は、はしかによる大学閉鎖や大麻問題など、学生に関わる報道が紙面を賑わした一年でもありました。今年一年が昨年のノーベル賞受賞のような明るい話題で過ぎる様祈るばかりです。

(S)